

## 声 明

韓国民主化闘争の中心的指導者である金大中氏・文益煥牧師ら37名の文学者、学者、キリスト者、学生、政治家たちが、内乱予備陰謀罰、国家保安法及び反共法違反等の容疑で、戒厳司令部によって捕えられ、軍法会議にかけられようとしています。

これらの人々に向けられた容疑は自らの強権体制にとって不都合な者たちを抹殺しようとする全斗煥政権の意図的なデッチあげであることは明らかです。

金大中氏をこのような状況においこんだのは、1973年8月8日の強制連行後政治決着という形をゆるした私たちの罪責の故であることを痛みにおぼえながら、私たちは日本政府が戒厳軍政府を支持することを止め、金大中氏らの命を救うために直ちに行動をおこすよう求めます。

「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」(ルカ19・40)

1980年8月8日

日本バプテスト連盟第34回年次総会代議員一同